

市議会会派：市民クラブ発行（無所属）

八王子市松木 32-1 電話 042-689-6312 FAX 042-689-6317

E-mail：info@hoshino-naomi.com URL:http://hoshino-naomi.com

市政報告書 第 39 号

挑戦・実現・成長

八王子市議会議員 4 期

無所属

ほしの 直美



☆1968 年生まれ 鷗友学園女子高等学校卒業 松木在住

☆東京理科大学大学院修士修了（工学修士）

☆日本家族社会学会所属

研究テーマ：ワーク・ライフ・バランス

☆趣味：読書・ピアノ・ゴルフ・テニス（観賞）・犬好き

☆職歴：約 22 年の会社員生活を送る。

日立系企業で PC・CAD インストラクターを経て、橋梁設計事務所にて
高速道路設計業務に携わる。現在、衛生検査所取締役

☆所属委員会：総務企画委員会委員

研究テーマ：「多様なつながりから育む持続可能な地域づくりの推進」

☆多摩ニュータウン環境組合議会委員 ☆保健所運営会議委員

令和 6 年 第 3 回定例会 一般質問（抜粋）（全容は八王子市議会インターネット中継を検索）

一般質問を行うことは、地域のことを深く知り、多くの住民の声を届ける議員の大切な仕事です

子ども・若者支援の充実を：不登校対策と進路未決定の子どもたちについて

不 登校児童生徒数が平成 29 年度の 506 人から令和 4 年度には 1,832 人へと大幅に増加しており、深刻な課題となっています。また、高校中退や進路未定の子どものことも多く、どこにも属せず行く場所がない状況には、胸が痛む思いです。今、こうした子どもたちへの迅速な対応が求められています。不登校対策として、給食センターに給食を食べに来た子どもたちが、次の一歩を踏み出せる支援はできないかと議会に於いて対応を求めてきましたが、専門職員の配置が難しいなど、実現ができませんでした。

そこで一歩踏み出す新たな取り組みとして、教育

委員会に対し『給食センターを通じた不登校児童生徒と児童館職員をつなげる活動』を提案しました。教育委員会からは「今回のご提案を受けて、給食センターと児童館が連携し、他者と関わる機会を増やすことで支援を充実させる」との答弁がありました。

子 子どもたちの成長を支え、保護者の安心感を高めるものとして、この取り組みは、大きな可能性を秘めていると感じています。今回得られた成果や課題を踏まえ、今後も子どもたち一人ひとりの未来をより明るいものにするため、地域での活動を見守り、支えられるよう、さらなる充実を目指していきたいと思ひます。

防災：豪雨災害への対策について

豪 雨による頻発する浸水被害の抑制は重要な課題であり、市内全域で行う必要があります。本市は古くから市街化が進み、下水道管の老朽化も進行しており、最近でもゲリラ豪雨による浸水被害などが都内でも見受けられるようになっ

ていることから、都市計画税を有効に活用できる都市計画事業を提案しました。

水 循環部からは、「台風第 10 号からも雨水対策の重要性を再認識している。本市の下水道事業では、国や都の補助を活用し、下水

道管の長寿命化を進めているほか、下水道施設の改修や雨水浸透施設の設置なども進め、多面的に対策

している。今後もさまざまな財源を活用し、より一層の対策強化を図る」との答弁がありました。

林業：森林整備への取り組みについて

民

有林の所有者が特定できず、適切な整備が行われないことは、森林保全におけるリスクです。「八王子のみどり」は財産であり、みどりの存在をリスクにしてはいけなく考えています。また、みどりは、環境保全、防災、景観形成、子育て、教育、コミュニティの醸成、レクリエーションなど、さまざまな機能を持っています。質問で取り上げた森林保全だけでなく、八王子の財産である「みどり」を将来に渡って残していくため、何が出来るかを市民・事業者・行政が協力していかなければなりません。そこで、今後の課題解決に向けた市の考えを問いました。

環

境部からは、「4月から土地所有者の登記が義務化されたことで、所有者との連絡が取りやすくなり、今後は所有者の意向を確認しながら、都の補助などを活用し、土砂災害防止や水源の涵養（かんよう）機能など、森林の多面的機能を十分に発揮できるよう、継続的な整備を進めていくことが重要と考えている」との答弁がありました。



令和5年度決算総括質疑・討論（全容は八王子市議会インターネット中継を検索）

今回は決算審議もあり、市長部局をはじめ、幅広い所管への質問をしております

事務事業評価と行政運営の見直しについて

毎

年の決算審議で実施される事務事業評価では、今年度実施された559事業のうち、廃止となったのはわずか8事業で、実質的に終了した事業はありません。過去の市長答弁で示されたサンセット※手法の導入状況も不透明であり、社会環境の変化に応じた見直しが必要と考えます。また、成果を評価する際には単なる指標だけでなく、市の目指す目標への寄与度を検証すべきと求めました。

市

長からは、「サンセット※手法の導入には財源の優先順位付けが必要であり、事務事業評価を通じて、市民ニーズやコスト分析を踏まえ、行政の持続可能性を確保していくことが重要と考えている」との答弁がありました。

引続き効果検証を進め、より簡素で市民にとって分かりやすい手法で、事業の運営方法を見直していく事を推進してまいります。

※サンセット：事業や制度などについて、あらかじめ終期を条例や規則、要綱等で明示しておくこと

決算賛成討論 『立ち止まる勇気と評価する理性を！』

令

和5年度、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に位置づけられた一方、国は物価高対策として補正予算を編成。本市でも円安やインフレに迅速に対応し、特別給付金支給などを実施しました。また、能登半島地震や集中豪雨など災害対応も重要課題となっており、災害に強いまちづくりと合わせて災害から早期に復旧、復興できる体制を整えることが必要です。市税収入は過去最高の収入率99.7%を達成し、基金残高は480

億円超、市債残高は縮減。66億円の黒字を確保。

ワ

この口を閉じるためには、甘い予測は通用しません。一度始めた事業であっても立ち止まる勇気と再評価する理性が必要です。漫然と事業を続けるのではなく、市民のニーズを的確に捉え、事業目的の達成に最も効果的な手法を選び、効率性と時代適合性を重視して常に見直しを進めます。次世代を支える取り組みを推進し、引続き持続可能な地域社会の実現を目指してまいります。